

スーパーホンIP

使用説明書



目次

- | | | | |
|---------------------|----|----------------------|-----|
| • 電話機を取り付ける前に..... | p4 | • 電話機での音量調整について..... | p11 |
| • 各部の名称と機能..... | p5 | • 短縮ダイヤルの登録について..... | p12 |
| • 電話機の取り付け方..... | p6 | • 機能キーの操作方法について..... | p13 |
| • 壁掛けでご使用の場合..... | p8 | • 故障かなと思ったら..... | p19 |
| • 電話機の機能キーについて..... | p9 | • よくある質問と回答..... | p19 |
| • 電話機の操作のしかた..... | p9 | • 仕様..... | p20 |




ご使用前に必ずお読みください











安全上のご注意








この「安全上のご注意」には、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するために、守っていただきたい事項を示しています。












本商品をご使用前に、本文をよくお読みいただき、正しくご使用ください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に必ず保管してください。

絵表示の例

	この記号は禁止である事を告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
	この記号は行為を強制したり、指示したりする内容を告げるものです。
	この記号は AC 電源のプラグを抜く事を指示するものです。

	警告 (次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性) が想定される内容を示しています。
	「LAN」ポートに接続したネットワークケーブルを商用電源、アナログ電話回線、デジタル電話回線(ISDN)、PBX デジタル電話回線には接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	本機を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	本機の上や近くに花瓶、コップ、化粧品、薬品、植木鉢など、水類の入った容器または、小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
	内部の点検・修理は、販売店に依頼してください。
	ACアダプタをご使用の場合は、下記の項目もお読みください。
	指定のACアダプタ以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	濡れた手で、電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

	電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。
	タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。
	ACアダプタのコードに重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったりしないでください。コードが破損し、火災・感電の原因となります。
	近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。落雷によっては、火災・感電・故障の原因となります。
	万一、内部に水などが入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
	煙が出ている、異臭がするなどの場合は、すぐに電源プラグを抜いて、煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
	万一、本機を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

	注意 (次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。)
	調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるような場所および、ちり、ほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
	ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
	直射日光の当たる所や、湿度の高い所には置かないでください。内部の温度が上がり、火災・故障の原因となることがあります。
	水滴がついたら乾いた布で拭き取ってください。内部に入ると、火災・故障の原因となることがあります。
	本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。
	壁掛け用に取り付ける場合は、重みにより本機が落下しないよう、専用の取付器具を使用し、指定の方法で取り付けてください。落下すると、けがの原因となることがあります。
	ACアダプタをご使用の場合は、下記の項目もお読みください。
	電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷付いて火災・感電の原因となることがあります。
	移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、回線コードなど外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードを引っ張るとコードが傷付き、火災・感電・故障の原因となることがあります。
	お手入れの際は安全のために、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

● 電話機を取り付ける前に

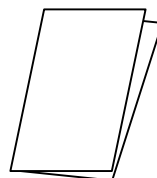
ご使用にあたってのお願い

- 本電話機の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外的要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本電話機を人命に危害を及ぼす恐れがあり、高い安全性が必要とされる環境下では使用しないでください。

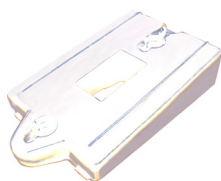
スーパーホン IP（以降、電話機）を取り付ける前に、箱の中に入っている電話機本体と「添付品」をお確かめください。



電話機本体



使用説明書(本書)

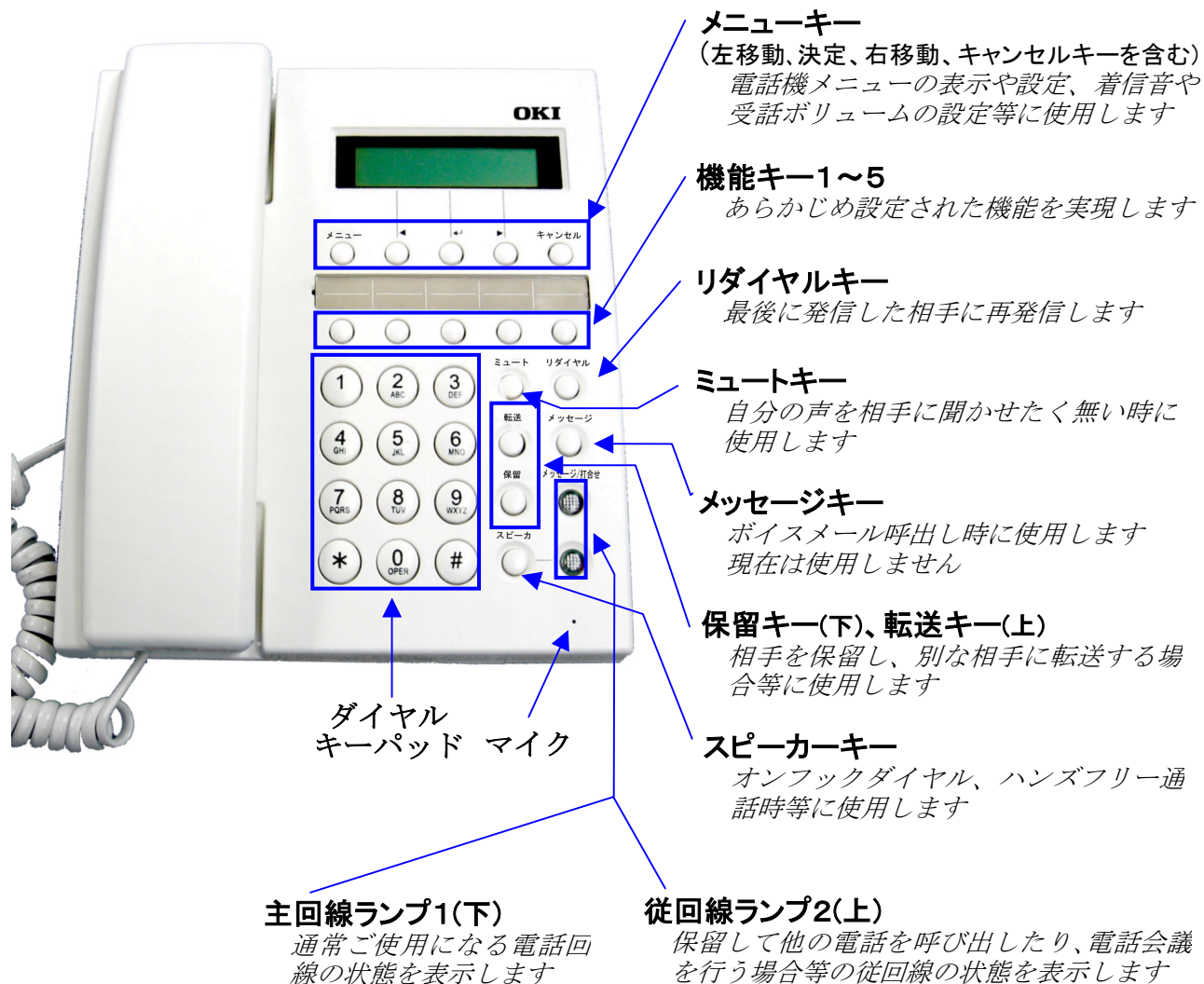


壁掛け/チルト台用品
(止めネジ 2 個を含みます)







引き出しメモ
(電話機の底面に取り付けてご使用ください)

● 各部の名称と機能







● 主回線ランプ1(下)、従回線ランプ2(上)の主な表示例は下記の通りです。

主回線ランプ1(下)

-  (緑点灯) 受話器を上げて使用中
-  (緑点滅) 主回線に着信中、着信拒否設定中
-  (赤点滅) 相手保留中
-  (赤点灯) ハンズフリーで通話中

従回線ランプ2(上)

-  (緑点灯) 従回線で通話中、会議中
-  (緑点滅) 従回線に着信中
-  (赤点滅) 従回線で相手保留中
-  (赤点灯) 従回線をハンズフリーで使用

● 電話機の取り付け方

1. 取り付けにあたっての注意事項

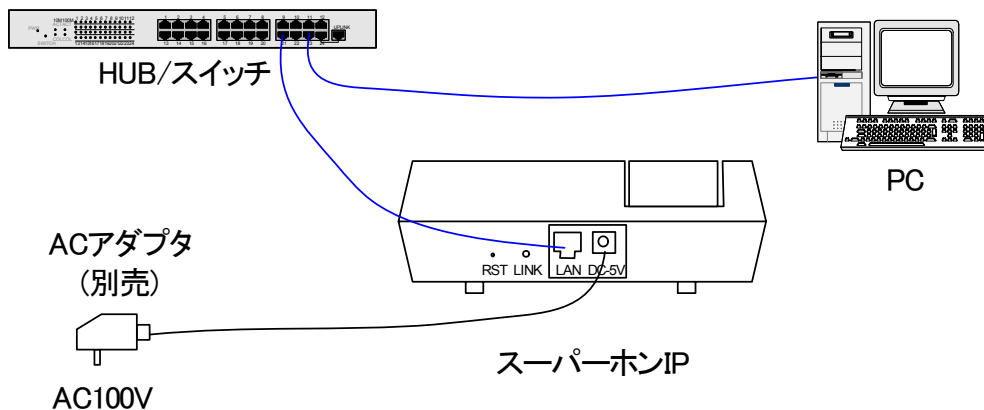
- 電話機は、従来のアナログ電話回線、デジタル電話回線（I S D N）、P B Xデジタル電話回線には接続できません。
コンピュータネットワーク用のスイッチングHUB、リピータHUBに接続します。
これらのHUBに接続する為に、ネットワークケーブル（カテゴリ5 U T Pケーブル（1 0 0 M b p s）、または、カテゴリ3 U T Pケーブル（1 0 M b p s））が必要となります。
- 給電機能付きHUB以外でこの電話機をご使用になる場合、別売のA Cアダプタが必要になります。



別売A Cアダプタ

2. 接続方法

- HUBの空いているポートと電話機の「LAN」ポートをネットワークケーブルで接続します。
- 電話機内蔵のWEB ページで電話機の設定等を行う場合は下図のような PC 接続が必要となります。
- 給電機能付きHUB以外の場合は、電話機にACアダプタ（別売）を接続します。
給電機能付きHUBに接続する場合は、ACアダプタ（別売）は必要ありません。
ご利用のHUBの種別については、販売店にご相談ください。
- 電源と、ネットワークケーブル接続後に LINK のランプが点灯する事を確認してください。

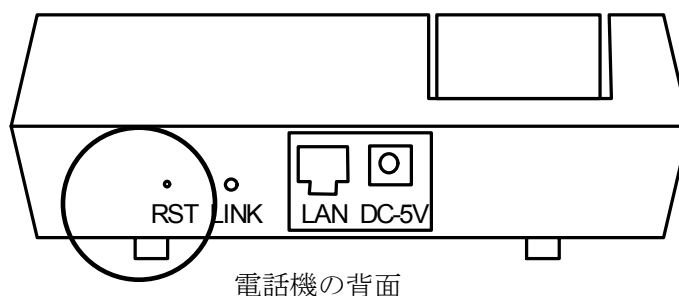


【設置にあたって】

- ・ネットワーク構築に関しては、販売店にご相談ください。
- ・テレビ、ラジオ、無線機、電子レンジ、インバータ形蛍光灯などの磁気、電波を発生する場所や違法無線を受ける場所には設置しないでください。本製品の誤動作の原因となることがあります。
- ・ACアダプタをテレビ、ディスプレイ等の近くに設置しないでください。画面が乱れる原因となることがあります。
- ・この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適正な対策を講ずるよう要求されることがあります。

【取り扱い上のご注意】

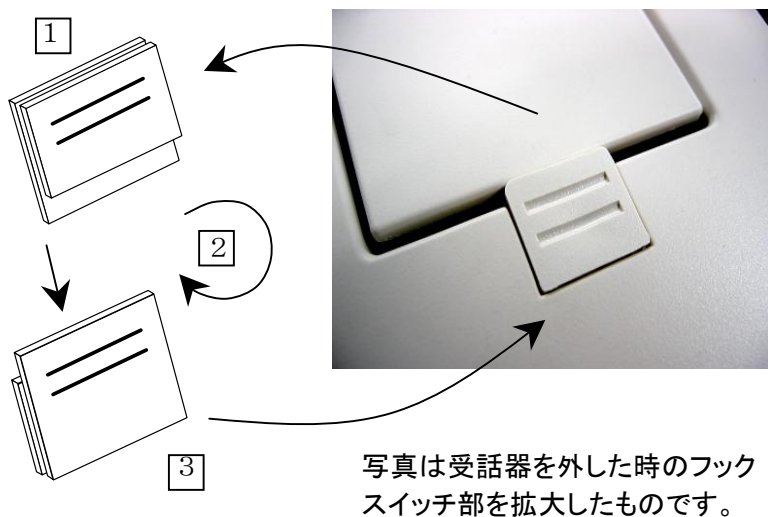
- ・落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。
- ・電話機に接続されているケーブルを強く引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。
- ・電話機を清掃するときは、揮発性のあるシンナーやアルコール及びシリコン系クリーナーなどの使用は絶対にさけてください。水を含んだ布をかたく絞って拭いた後、柔らかい布でからぶきしてください。変色、変形の原因になることがあります。
- ・雷の多い地域において、雷対策を実施する場合には販売店にご相談ください。
- ・背面のRSTボタンは工事者用スイッチです。誤って押さないようにしてください。設定したデータが消えてしまい使用できなくなります。誤って押した場合は工事業者に連絡してください。



● 壁掛けでご使用の場合

本電話機を壁掛けでお使いになる場合、添付の壁掛け用品を使用します。

1 フックピースを壁掛け用に取り付けます



- 1 フックスイッチ部分のフックピースを上側にずらして、取り外します。
- 2 取り外したフックピースを反転させます。
- 3 ハンドセットが引っかかるでっぱりが出るようにフックピースを本体に取り付けます。

2 壁掛け用品を取り付けます



添付の壁掛け用品を左図のように取り付けます。

※壁掛け用品の取り付け向きを替えることで卓上使用時のチルト台としても使用できます。

● 電話機の機能キーについて

- 本電話機には機能キーが5つあり、そのキーに下記機能を割り付けることが可能です。
- 機能キーの電話機への割り付けについては管理者による設定が必要です。

【機能キーに割り付け可能な機能】

1. 着信拒否(DND).....一時的に電話機への着信をさせないようにします。
2. 会議通話.....通話中にもう一人の相手を加えて、会議通話を行えます。
3. 電話機ロック.....一時的に電話機の発信をできないようにします。
4. 電話履歴.....発信、着信、着信で未応答の相手番号をそれぞれ10件まで記憶します。
5. 電話帳設定、発信.....100件までの相手名と電話番号を保存して電話帳から発信できます。
6. 短縮ダイヤル発信.....10件までの電話番号を保存し、簡単に発信できます。
7. ワンタッチダイヤル.....短縮ダイヤルに登録した電話番号をワンタッチで発信できます。

※詳しい操作方法については13ページ以降をご覧ください。

● 電話機の操作のしかた

- 各記号の意味は次の通りです。


キーを押す。(スピーカ、機能キー、リダイヤル、保留、ミュート、ボリューム等)












受話器をあげる。







受話器をおろす。

区分	サービス機能	説明	操作方法	備考
発信	通常の発信	内線	内線に発信できます。  → 内線番号+# または、 スピーカ → 内線番号+#	
		外線	外線に発信できます。  → 0 (回線捕捉特番) → 相手先番号+# または、 スピーカ → 0 (回線捕捉特番) → 相手先番号+#	
	オンフックダイヤル	受話器を持たずに発信できます。	スピーカ → 相手先番号+#	
	ワンタッチダイヤル	ワンタッチで発信できます。	機能キー1 機能キー1にワンタッチダイヤル機能を登録した場合。	短縮ダイヤル0番に登録されたダイヤルを送出します。
	短縮ダイヤル	短縮番号で発信できます。	機能キー2 →短縮番号(0~9)+# 機能キー2に短縮ダイヤル機能を登録した場合。	短縮ダイヤルに登録されたダイヤルを送出します。

区分	サービス機能	説明	操作方法	備考
発信	リダイヤル	最後にかけた相手に再び発信できます。	 → リダイヤル または、 スピーカ → リダイヤル	
	クイックコール	電話帳（1～100）に登録された番号へ発信できます。	ダイヤル10押下後、クイックコールを  で選択し、最後に#を押します。	左記は電話帳10に登録した番号へ発信操作となります。 ダイヤル1～100を押下した場合LCDにクイックコールの表示が出ます。
着信	通常の着信	着信応答できます。	 または、 スピーカ	
保留	保留	通話中の相手を保留することができます。	通話中 → 保留	保留操作後、受話器をおろすと呼び返し音が鳴ります。
転送	ダイヤル転送	通話中の相手を一時保留して、他の内線呼び出後、転送キーを押すことによって保留されている相手を他の内線に転送することができます。	通話中 → 保留 → 転送先の内線番号 → 転送先の相手が応答 転送	転送先の相手が応答しなかったり、話し中の場合には、受話器を下ろすと元の相手と通話できます。
ミュート	送話ミュート	こちらの声を相手に伝えなくすることができます。	通話中 → ミュート	ミュート中はLCDに『ミュート』が表示されます。
その他	受話音量切り替え	通話中に受話音量の調整ができます。	通話中に   調整します。	1 2段階切替です。
	着信音量切り替え	着信鳴動中に着信音量の調整ができます。	着信音鳴動中に   調整します。	1 2段階切替です。
	スピーカ受話音量切り替え	スピーカ受話中に受話音量の調整ができます。	スピーカ受話中に   調整します。	1 2段階切替です。

● 電話機での音量調整について

電話機の操作により、各種音量調整ができます。

区分	サービス機能	説明	操作方法
電話機音量調整	スピーカ音量調整 送話音量調整 受話音量調整 着信音量調整 マイク音量調整	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーカ音量：1 2段階 ・送話音量：1 2段階 ・受話音量：1 2段階 ・着信音量：1 2段階 ・マイク音量：1 2段階 	 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">メニュー</div> を押します。 <p>LCDの下段に「ボリューム リング →」が表示されます。</p> <p>「ボリューム」を選択します。</p> <p>「スピーカ HSソウワ →」が表示されます。 スピーカ音量は「スピーカ」を押して選択します。 送話音量は「HSソウワ」を押して選択します。 → を押すと</p> <p>「HSジュワ チャクシン →」が表示されます。 受話音量は「HSジュワ」を押して選択します。 着信音量は「チャクシン」を押して選択します。 → を押すと</p> <p>「マイク モドル」が表示されます。 マイク音量は「マイク」を押して選択します。</p> <p>調整は   キーで行います。</p> <p>設定後、メニュー選択キー  を押すと、メニュー画面に戻ります。 メニュー画面から通常画面へはハンドセットの上げ、下げで切り替わります。</p>

● 短縮ダイヤルの登録について

本電話機には短縮ダイヤルを10件登録することができます。
操作手順を以下に示します。

① 受話器を置いた状態でメニューキーを押します。

テンワキ セッテイ：
ボリューム リング →

② [→]表示の選択キーを6回押します。

テンワキ セッテイ：
テンワチヨ タンダ →

③ [タンダ]表示の選択キーを押します。

タンシュク タイヤル：[0]

④ メニュー選択キー [↵]を押します。

タンダ ヘンシュウ：[0]
█

⑤ 登録する相手先電話番号を電話機のダイヤルキーで入力します。

タンダ ヘンシュウ：[0]
0345678900 █

修正がある場合、メニュー選択キーの[▶] [◀]を操作してカーソルを合わせ修正します。登録内容が正しいことを確認しメニュー選択キー [↵]を押します。

タンシュク タイヤル：[0]
0345678900

S a v i n g . . . 表示後右画面となり短縮ダイヤル0の登録が完了となります。

⑥ 続いて短縮ダイヤル1を登録する場合はメニュー選択キー [▶]を押します。

タンシュク タイヤル：[1]

以降は、操作④、⑤を繰り返すことで短縮ダイヤル登録をすることができます。

● 機能キーの操作方法について

1. 着信拒否

- ① 着信拒否を登録する場合

受話器を置いた状態で **着信拒否** 機能キーを押します。
上段左側に DND と表示されれば着信拒否が有効です。
着信拒否設定中は主回線ランプ 1 が緑点滅します。

DND: 4800

※キーを押した後、ランプが点滅するまで 1、2 秒の時間がかかります。

- ② 着信拒否を解除する場合

受話器を置いた状態で **着信拒否** 機能キーを押します。
上段左側に TEL と表示されれば着信拒否が無効です。
主回線ランプ 1 は消灯します。

TEL :
4800

2. 会議通話

- ① 電話機で通話中に、保留キーを押して第 3 者をダイヤルし、
相手が応答した後に **会議通話** 機能キーを押します。

4800
00 : 00 : 00

カイギ ツウワチュウが表示されます。
主回線ランプ 1，従回線ランプ 2 が緑点灯します。

カイギ ツウワチュウ
00 : 00 : 00

3. 電話機ロック

- ① ロック設定方法

受話器を置いた状態で **ロック** 機能キーを押します。
電話機がロック状態になります。
ロック解除の為のダイヤルキー以外は使用できません。

デンワキ ロック サレテマス
パスワード:

- ② ロック解除方法

パスワードを入力後[↵]キーを押します。

ロック カイジ ヲチュウ …

※電話機ロックでも着信は可能です。

※通話中は全ての機能を使用することができます。

※パスワード初期値は「1 2 3 4」です。パスワードの変更は管理者による設定が必要です。

4. 電話履歴

電話履歴は発信履歴・応答履歴・未応答履歴を表示し、そのまま発信することができます。

4.1 発信履歴

受話器を置いている状態で **電話履歴** 機能キーを押します。

① [ハッシン]表示の選択キーを押します。

デブワ リレキ:
ハッシン →

② 発信履歴が表示されます。

メニュー選択キー[◀]キーまたは[▶]キーを押します。
最新の発信履歴が1～10件まで表示されます。

ハッシン リレキ:1
4800

ハッシン リレキ:10
4700

③-1 発信履歴から発信する場合

発信履歴の表示中に[↵]キーを押した後に、[ハッシン]表示の
選択キーを押します。

ハッシン リレキ:1
4800

ハッシン リレキ
ハッシン サクジヨ モトル

発信履歴から発信します。

->4800

③-2 履歴を削除する場合

発信履歴の表示中に[↵]キーを押した後に、[サクジヨ]表示の
選択キーを押します。

ハッシン リレキ:1
4800

ハッシン リレキ:
ハッシン サクジヨ モトル

[サクジヨ]表示の選択キーを押すと1番号削除か全部削除か
の選択ができます。

1番号だけの場合は[サクジヨ]表示の選択キーを押します。

[ハイ] [イイエ]表示に切り替わります。

[ハイ] の表示選択キーを押します。

ハッシン リレキ サクジヨ:
サクジヨ ゼンブ モトル

ハイ イイエ

同様に全部削除する場合は[ゼンブ]表示の操作キーを押し、次
の確認画面で[ハイ] の表示選択キーを押すことで発信履歴が
全て削除できます。

4.2 応答履歴

- ① 受話器を置いている状態で **電話履歴** 機能キーを押します。
[→]表示の選択キーを押します。

デング リレキ:
ハッシン →

[アウトウ]表示の操作キーを押します。

デング リレキ:
アウトウ ミアウトウ

- ② 応答履歴が表示されます。
メニュー選択キー[◀]キーまたは[▶]キーを押します。
最新の応答履歴が1～10件まで表示されます。

チャクシン オウトウ:1
4800

チャクシン オウトウ:10
4700

- ③-1 応答履歴から発信する場合

応答履歴の表示中に[↵]キーを押した後に、[ハッシン]表示の
選択キーを押します。

チャクシン オウトウ:1
4800

チャクシン オウトウ
ハッシン サクジヨ モトル

応答履歴から発信します

->4800

- ③-2 履歴を削除する場合

発信履歴の表示中に[↵]キーを押した後に、[サクジヨ]表示の
選択キーを押します。

チャクシン オウトウ:1
4800

チャクシン オウトウ
ハッシン サクジヨ モトル

[サクジヨ]表示の選択キーを押すと1番号削除か全部削除か
の選択ができます。

1番号だけの場合は[サクジヨ]表示の選択キーを押します。

[ハイ] [イエ]表示に切り替わります。

[ハイ] の表示選択キーを押します。

アウトウ リレキ サクジヨ
サクジヨ ゼンブ モトル

同様に全部削除する場合は[ゼンブ]表示の操作キーを押し、
次の確認画面で[ハイ] の表示選択キーを押すことで発信履
歴が全て削除できます。

ハイ イエ

4.3 未応答履歴

- ① 受話器を置いている状態で[電話履歴]機能キーを押します。
[→]表示の選択キーを押します。

デック リレキ:
ハッシン →

[ミアウトウ]表示の操作キーを押します。

デック リレキ:
アウトウ ミアウトウ

- ② 未応答履歴が表示されます。
メニュー選択キー[◀]キーまたは[▶]キーを押します。
最新の未応答履歴が1～10件まで表示されます。

チャクシン ミアウトウ:1
4800

チャクシン ミアウトウ:10
4700

③-1 未応答履歴から発信する場合

応答履歴の表示中に[↵]キーを押した後に、[ハッシン]表示の
選択キーを押します。

チャクシン ミアウトウ:1
4800

チャクシン ミアウトウ:
ハッシン サクジョ モデル

->4800

③-2 履歴を削除する場合

発信履歴の表示中に[↵]キーを押した後に、[サクジョ]表示の
選択キーを押します。

チャクシン ミアウトウ:1
4800

チャクシン ミアウトウ:
ハッシン サクジョ モデル

[サクジョ]表示の選択キーを押すと1番号削除か全部削除か
の選択ができます。

1番号だけの場合は[サクジョ]表示の選択キーを押します。

[ハイ] [イエ]表示に切り替わります。

[ハイ] の表示選択キーを押します。

ミアウトウ リレキ サクジョ:
サクジョ ゼンブ モデル

同様に全部削除する場合は[ゼンブ]表示の操作キーを押し、
次の確認画面で[ハイ] の表示選択キーを押すことで発信履
歴が全て削除できます。

ハイ イエ

5. 電話帳

① 受話器を置いている状態で **電話帳** 機能キーを押します。

デシリョウ:
センタク [1-100]:

② 登録済みの番号がある場合はその番号を入力しメニュー選択キー[.]キーを押します。

デシリョウ:
センタク [1-100]: 1

③ 登録してある番号が表示されます。
※メニュー選択キー[◀]キーまたは[▶]キーを押すと1～100の電話帳の登録内容を見ることができます。

001 :
4800

④ メニュー選択キー[.]キーを押します。
発信・削除・編集が表示されます。

4800
ハッシン サクジヨ ヘンシュウ

5.1 発信

① [ハッシン]表示の選択キーを押します。

4800
ハッシン サクジヨ ヘンシュウ

② 登録済みの番号へ発信します。

->4800

5.2 削除

① [サクジヨ]表示の選択キーを押します。

4800
ハッシン サクジヨ ヘンシュウ

② 削除する場合はハイ、しない場合はイエエを押します。

4800
サクジヨ: ハイ イエ

5.3 編集

① [ヘンシュウ]表示の選択キーを押します。
電話番号と名前が編集可能です。

4800
ハッシン サクジヨ ヘンシュウ

②-1 [バンゴウ]表示の選択キーを押します。

デシリョウヘンシュウ:001
バンゴウ ナマエ

ダイヤルキーで電話番号の編集ができます。

デシリョウバンゴウ ヘンシュウ
4800

②-2 [ナマエ]表示の選択キーを押します。

デシリョウヘンシュウ:001
バンゴウ ナマエ

ダイヤルキーで名前の編集ができます。
※電話機から入力できる文字はダイヤルキーからの数字、英字、記号のみです。

ナマエ ヘンシュウ

6. 短縮ダイヤル発信

- ① 受話器を置いている状態で **短縮ダイヤル** 機能キーを押します。

短縮ダイヤル:

- ② 短縮ダイヤル番号0～9を入力します。

- ③ 登録している場合は番号が表示されるのでダイヤルキーの【#】または【*】キーを押して発信します。

1234

※ 【#】または【*】を押さない場合でも一定時間経過後、自動的に発信します。

7. ワンタッチダイヤル

- ① **ワンタッチダイヤル** 機能キーを押します。

->4800

登録された電話番号へ自動的に発信します。

ワンタッチダイヤル発信機能は、短縮ダイヤル番号0から4に登録されている番号を、ワンタッチダイヤルキーとして設定された機能キーを押下することで、ワンタッチで発信できる機能です。

機能キー1にワンタッチダイヤルを登録すると短縮ダイヤル番号0に登録した番号、機能キー2にワンタッチダイヤルを登録すると短縮ダイヤル番号1に登録した番号、機能キー3にワンタッチダイヤルを登録すると短縮ダイヤル番号2に登録した番号、機能キー4にワンタッチダイヤルを登録すると短縮ダイヤル番号3に登録した番号、機能キー5にワンタッチダイヤルを登録すると短縮ダイヤル番号4に登録した番号をそれぞれの機能キーを押下することで発信することができます。

● 故障かなと思ったら

症状	確認して頂く項目	処 置
受話器から“ツー” という音が聞こえない。	ディスプレイに何も表示されていない。	ネットワークケーブル又はACアダプタの抜け、接触不良が考えられます。確実に接続されているかを確認してください。
	ディスプレイは通常通り表示されている。	ハンドセットのコールコードの抜け、接触不良が考えられます。確実に接続されているかを確認してください。
	電話機背面のLINKランプが消えている。	ネットワークケーブル又はACアダプタの抜け、接触不良が考えられます。確実に接続されているかを確認してください。 また、HUB側のポートを入れ替えてみてください。
こちらの声が相手に伝わらない。	LCDに「ミュート」が表示されている。	LCDに「ミュート」が表示されているときは、こちらの音声は相手に伝わりません。 「ミュート」ボタンを押して、ミュートを解除してください。
LCDに「サービス・テイシチュウ」が表示がされている。	電話機の設定を確認。	管理者にご相談ください。
LCDに「CHECK CONNECTION」が表示がされている。	電話機背面のネットワークケーブルの接続確認。	ネットワークケーブル、接触不良が考えられます。確実に接続されているかを確認してください。 また、HUB側のポートを入れ替えてみてください。

● よくある質問と回答

質 問	回 答
ACアダプタが壊れた。 同じ出力電圧ならば何でも使えるのか？	専用のACアダプタ以外のご使用になれません。 他のACアダプタをご使用になった場合、火災、感電、故障の原因となります。ご購入に際しては、販売店にご相談ください。
壁掛けが可能か？	専用の壁掛け用品を用いることで、壁掛け可能です。
停電でも使用できるか？	本電話機は停電機能をサポートしておりません。 UPS等のバックアップを希望される場合、販売店にご相談ください。

● 仕様

項目		仕様
ネットワークインタフェース		10BASE-T または 100BASE-TX
ネットワーク伝送距離		100m
給電方式		<ul style="list-style-type: none"> ・専用の給電装置によるセンター給電 給電装置に関しては販売店にご相談ください。 ・ACアダプタによるローカル給電 (DC5V) 使用電源: AC100V (50Hz/60Hz)
消費電力		5W以下
設置形態		卓上/壁掛け
使用温湿度	温度	0 ~ +40 (°C)
	湿度	20 ~ 85 (%RH)
保存温湿度	温度	-20 ~ +60 (°C)
	湿度	10 ~ 90 (%RH)
寸法		約174mm(幅) × 198mm(奥行) × 70mm(高さ)
質量		約 0.9 (kg)

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本電話機の運用・保守に関する疑問や質問、あるいは本使用説明書の記述で不明な箇所がありましたら本機を購入されました販売店までお問い合わせください。

OKI 沖電気工業株式会社

Rev1.0